

路地空間の「観光」「文化」「生活」に活かす試みに関して  
 —全国路地サミット 2015in 観音寺報告—

実査日：平成 27 年 10 月 30 日～11 月 1 日

報告者：財団法人都市化研究公室研究員岩間真二

## 1. はじめに

観音寺市は、当市 HP によると、以下の通り

### ■位置と地勢

観音寺市は、香川県の西南部に位置し、西は瀬戸内海の燧灘（ひうちなだ）に面し、沖合には伊吹島などの島しょを有している。南は讃岐山脈の雲辺寺山、金見山などを境に徳島県や愛媛県に接し、高知県にも近く、四国のほぼ中心に位置している。市の中央部には三豊平野が広がり、東部から西部に向かって財田川、柞田川などの河川が流れ、豊かな田園地帯となっており、河口付近に市街地が形成されている。東部から南部にかけては山間地が、北部には七宝山などの丘陵地が連なっている。三豊平野にはため池が多数点在し、観音寺市の地勢の大きな特色となっている。

本市には、国道 11 号、377 号が北東から南西に走っており、それに平行して四国横断自動車道があり、大野原インターチェンジを有している。また、特急列車の停車する JR 観音寺駅ほか、豊浜駅、箕浦駅があり、通勤、通学等の要所になっており、高松、岡山までそれぞれ約 1 時間と交通の便に恵まれている。

### ■沿革

大宝 3 年 3 月 21 日、神宮寺（今の観音寺）住職法相宗の僧日証上人が、琴弾八幡宮を鎮座せられた当時に始まり、奈良朝以来の古い歴史を有し、大同 2 年弘法大師が神宮寺に聖観音の像を安置して現在の観音寺を称するに至った。

観音寺市は平成の大合併により、平成 17 年 10 月 11 日に旧観音寺市、旧大野原町および旧豊浜町が合併し、新「観音寺市」として発足した。この 1 市 2 町が合併した新「観音寺市」は、人口約 6 万 5 千人、面積は 117.84 キロ平方メートルで、西讃地域の中心都市として重要な役割を担っている。（以下略）

出典：観音寺市 HP (<https://www.city.kanonji.kagawa.jp/soshiki/2/3069.html>)

人口は昭和 30 年の 7 万 6 千人強から昭和 60 年頃の一時的な増加はあるものの減少トレンドとなっている。平成 22 年時点での高齢化率は約 28%となっている。

観光としては、琴弾公園、銭型砂絵、豊稔池堰堤などがあり、特産としてはうどん、伊吹いりこ・ちりめん、蒲鉾等に代表される海産物などがある。

本稿では、当地にて開催された「全国路地サミット 2015 in 観音寺」に参加し、各地の取り組みや、まち歩きなどを通じて、路地空間を観光、文化、生活に活か

す事への可能性について考察してみたい。



銭型砂絵



豊稔池堰堤

## 2. 全国路地サミット 2015 in 観音寺

- 概要

全国路地サミット 2015 in 観音寺は平成 27 年 10 月 31 日から 11 月 1 日の 2 日間にわたり行われた。本稿ではその前日に行った事前調査を含めについてレポートする。スケジュールは以下の通り。(敬称略)

サミット前日	10月30日(金)
15:00	前乗り事前調査
第1日目	10月31日(土)
会場は、	観音寺信用金庫本店大ホール
12:30	開場・受付開始
13:20	開会
13:30	基調講演
	「これからは地域主導型の観光だ！」
	井上 弘司 (地域再生診療所 所長)
14:35	事例発表
	鈴木 俊治 (NPO 粋なまちづくり倶楽部副理事長 明治大学客員教授・(有)ハーツ環境デザイン)
	中村 卓史 (むれ源平石あかりロード実行委員会事務局長)
	かわうそガールズ (高知県立須崎高等学校)
	うどん県いりこだ市立銭形高校 (香川県立観音寺中央高等学校)
	今井 晴彦 ほか (全国路地のまち連絡協議会世話人有志)
	中野護 (別府オダサク倶楽部)
16:00	パネルディスカッション
	「観光とまちづくり」
	コーディネーター 新谷稔 (香川県てくてくさぬき推進協議会)
	井上 弘司 地域再生診療所所長
	藤田 圭造 観音寺市観光協会
	鈴木 俊治 NPO 粋なまちづくり倶楽部副理事長 明治大学客員教授・(有)ハーツ環境デザイン
	中村 卓史 むれ源平石あかりロード実行委員会事務局長
	豊浦 孝幸 全国路地サミット 2015in 観音寺実行委員長
20:15	夜のまちあるき-よるしるべ
第2日目	11月1日(日)
9:00	オリジナルまちあるきコース

テーマと目的・概要は下記の通り。

■テーマ  
「地撮り かんおんじ」

■目的  
全国各地で「路地」を舞台にまちづくりを行っている方が一同に集結し、日頃の活動報告や課題を共有できる「情報発信と地域間交流の場」を提供することを目的とします。

■概要  
今年度の香川県観音寺市では、講演会・事例発表・グループディスカッションの他、瀬戸内国際芸術祭プログラムにも認定された「夜のまちあるきーよるしるべー」を中心とし、地域の高校生と共に全国路地サミットを運営いたします。高校生たちは「観光」をテーマに「観音寺の魅力がたっぷり！オリジナルまちあるきコース」を作成いたします。  
「路地×高校生×まちづくり」をお楽しみください。  
引用：全国路地のまち連絡協議会 HP  
(<http://jsurp.net/roji/summit/13/summit13top.html>)

- 前乗り事前調査

翌日シンポジウムの全国理事のまち連絡協議会の事例発表「観音寺を歩いてみて」の発表のための事前レクチャーとして、前日に観音寺のまち歩きを地元の方とともにいった。



観音寺のまちなみ



観音寺のまちなみ



観音寺のまちなみ

事前にまち歩きを行うことによって、おおよその地域性や、まち歩きを活用するためのヒントなどを得ることができた。

- シンポジウム

シンポジウムでは、井上氏による基調講演にはじまり、各地の事例発表が行われ、その後、パネルディスカッションが行われた。

事例発表では、東京の神楽坂、香川県高松市牟礼町のむれ源平石あかりロード、全国路地のまち連絡協議会世話人による観音寺市の前乗りまちあるきの報告のほか、高知県須崎市や地元観音寺市の高校生の発表が特徴的であった。それぞれの地域における、特色や活動内容について報告が行われた。



シンポジウムの様子



高校生による発表

事例発表の後、パネルディスカッションが行われ、「観光とまちづくり」をテーマに路地をどのように生かしていくかなどについて議論が行われた。



パネルディスカッション

- 夜のまちあるき-よるしるべ

シンポジウム終了後、当日開催されていた、夜のまち歩きイベント「よるしるべ」に参加した。2015年は10月30日から11月8日にかけて各会場で映像、灯り、音楽、香りの作品をめぐるイベントである。公式ホームページでは以下の通り説明されている。

**【よるしるべとは】**

観音寺の夜、幻想世界をまち歩き

まちづくりプロジェクト「ドピカーン観音寺」から生まれた『よるしるべ』。

2011年の誕生から、この秋、5度目の開催を迎えます。

観音寺に月の光が降り注ぐ頃、昼の顔とはまるで違う幻想的な風景がまちや路地裏に現れます。

歴史、風土、習慣、ここに漂い流れるさまざまなこと。

そこから構成されたアート作品が道しるべとなり観音寺の幻想世界へ誘う、そんな、まち歩きです。

夜の商店街と迷路のような路地裏に出現する神々の残り香

映像、音楽、パフォーマンス、香り、風味などよるしるべの光の下、観音寺の隠れた魅力が露になります。

さあ、今に生きる神々の気配をお愉しみください。

出典：よるしるべ 2015HP (<http://yorushirube2015.tumblr.com/>)

夜間のまち歩きは、通常行われる昼間のまち歩きと異なり、夜間の独特な風景や、暗いことでまちの景色の情報量が減っていること、各ポイントでみられる光などを使った作品を際立たせており、また夜のまちを歩くという外部からの観光客にとっては貴重な機会ではないかと感じられた。



パンフレット



会場マップ(公式 HP より)



まちあるきの様子



映像作品



プロジェクションマッピング

- オリジナルまちあるきコース

シンポジウム翌日は、地元高校生作成オリジナルコースのまち歩きが行われた。本サミットでは、高校生の参加が特徴的で、地元の若い人がまちに対してどのように関わっていくか考える機会となっている。



案内の様子



まち歩きの様子

地元高校生が、事前にまちを歩き取材し、コースを設定して資料を作成、実際に案内を行うというプロセスを行うことで、普段の生活では気づかないまちの様々な情報について知る機会となったということである。

また、このような活動を通じ、プレゼンテーションや、調査や取材の方法など

多くのことが学べるであろうし、今後地元のまちとどのように関わっていくか考える良い機会となったと思われる。

### 3. おわりに

観音寺における、路地サミットについて報告を行った。本編では触れなかったが、サミット 2 日目の早朝に偶然、銭型砂絵の再整形する「銭形砂ざらえ」が開催されていた。地元にかかわらず多くの人々が参加し、地域の資源を保全する姿勢に関心を持って短時間ながら参加した。



銭形砂ざらえ

一方、まち歩きについては、観音寺市においては、まだ始まったばかりという状況ではないだろうか。

例えば、まち歩きに適したマップの提供がないこと。ガイドに育成やガイドを受け入れる組織がないことなどが挙げられる。また、時折、路地裏マップの看板が挙げられているが、現在地や方位が無いことなど、若干不備な点も見受けられる。



方位や現在地の記載が無い看板

前述した、砂ざらえに多くの人々が参加しているところを見れば、地元を盛り上



げていこうという機運は低くない印象があり、地元発意でまち歩きを行っていくことは十分可能であると思われる。

ただし、現状において前述の様に適した地図が見受けられない事をはじめとして、地域資源の洗い出しから必要ではないかと思われる。その点において、2日目に行われた、高校生によるオリジナルまち歩きは参考になるものであると言える。高校生の案内によるまち歩きは、高校生という性格上必ず人が入れ替わるため、個人よりある程度組織的に継続しなくてはいけない面もあるため、継続性には学校の協力が欠かせない。

そのような面から、地元による多世代混合の組織づくりがまち歩きを継続していくためには必要ではないかと思われる。

観音寺市は様々な観光資源と、港町としての歴史、観音寺をはじめお遍路の札所など、より広く生かせるまち歩き観光の実現が可能ではないかと思われる。